

教養講座 地元学を考える

第百五十一回「地元学を考える」
(二〇一六年七月十六日開催)

『古武道』から
『布かたり』へ

講師 海老沢とも子さん

海老沢様との出会い

出合いは人生を豊かにしてくれることを肌で体感致しました。日々忙しい日常を思う時、自分自身で選択した時の流れは、大変大事で大切にしたいと考えています。

そのような出合いが「地元学を考える」に参加させていただき、久しぶりに感じ、嬉しく思いました。海老沢様の講話の中に、恩師の方々との出合いが語られておりました。その方々の教えの継続で現在のご自分の一部になったと感じられていることに感銘を受けました。

昨今、Yes/Noとすぐに結果を求める風潮がありますが、今回のお話の古武道をはじめ、剣道・柔道・茶道・華道・香道等、「道」と名がついているものは簡単に身につくものではなく、時間がかかるものであり、

口伝と心得ます。

信頼関係で伝え携けられる教えは、海老沢様のレジュメにも書かれているように日本の文化に溶け込んでいる日本人の生き方の原点であり「こころ」だと、私も同感です。

更に海老沢様の言われた柔術の基本は「戦わない」ということばに現れている気が致します。以前に私は「戦わずして勝つ」ということばを聞いたことがありますが、きつと「道」を極めた方は、品格や態度・動き方に隙のない構えになっている意味ととらえます。(心構えが大切)とよく祖父に言われたことばも思い出しました。

最後に講話を聞きながら、人は何かを表現することで、結果、自分と向き合うことになり、自分以外の他者を感ずることが出来るようになると思いました。海老沢様は「布かたり」という方法でそれを表現下さったのだと思います。ありがとうございました。

追伸

講演後、思いがけずに誘われるまま海老沢様と一緒に(他四名の方達と)御倉邸に行き、お話が出来た

ことは大変嬉しく、楽しいひとときでした。再会できることを願いながら御倉邸を後に致しました。(海老沢様、頂戴しましたブローチ大切に愛用致しております)
(遠藤善恵)

第百五十一回に参加の遠藤さんに感想文を寄稿していただきました。ありがとうございました。

Bienvenidos a Otama ! ようこそ大玉村へ

ペルー・マチュピチュ村長ら 訪問団が来県！(前編)

先月の会報ではマチュピチュ村と大玉村、そしてシャロームの関わりについてご紹介しました。今月はマチュピチュ訪問団が大玉村を訪れた時の様子を、同村在住の佐原さんがご紹介します。



▲たくさんの大玉村民がマチュピチュ訪問団をお出迎えました。



▲歓迎セレモニーでスピーチをするマチュピチュ村の皆さん。

世界遺産のあるマチュピチュ村の創設者は、大玉村出身の野内与吉さん。その繋がりでも、大玉村とマチュピチュ村が友好都市締結をしてから約九ヶ月。マチュピチュ村長夫妻、議員さん、村民代表の方々九名の公式訪問団が来県しました。

初日の八月三日は、大玉村役場で歓迎セレモニーが行われ、老若男女多くの村民が出迎えました。新聞報道では、村民が五百人とか八百人と報道されていましたが、「人口八五〇〇人の小さな村で八百人がお出迎え？」と、少し疑問はありますが、確かに多くの方が役場手作りのペルー国旗の手旗を振りながら出迎えました。

マチュピチュ村長の挨拶の中で、大玉村と友好都市が締結できたのは大玉村出身の野内与吉さんが初代村長だからできたこと、今回大玉村に来た目的は、教育と観光、そして様々なことを一緒に活動すること約束するために日本にやってきたと、スペイン語で話し、与吉さんの孫である野内セサル良郎さんが通訳しました。最後に集まった皆さんに感謝し日本語で「みんなだいす・す・すき」と話すと集まった皆さんから笑いと大きな拍手で挨拶を終りました。初めてスペイン語を聴く子供たちが多かったのでしょうか、挨拶の冒頭一瞬子供たちが、静かになった場面がありました。この出来事をきっかけに、国際理解を深める良いきっかけになったのではないかと感じました。
(後編へ続く。来月の会報に掲載いたします)

マチュピチュ村創設者・野内与吉と 古代アンデス文明展

日時：平成 28 年 8 月 7 日～ 28 日

(休館日：8 月 8・15・22 日)

場所：二本松市市民交流センター

多目的室 (二本松市駅前)

入場料：大人 500 円 (高校生以下無料)